

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第4巻第46号

第46週(11月8日～11月14日)

発行年月日:平成16年(2004年)11月19日

発行:滋賀県立衛生環境センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類～5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (46週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (46週)	全国 (46週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	9	522	7	459
	腸チフス	0	2	62	0	60
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	21	3,443	8	2,635
4類感染症	E型肝炎 ^{(*)2}	0	1	26		
	オウム病	0	1	38	1	44
	ツツガムシ病	0	0	139	2	380
	デング熱	0	2	43	0	31
	マラリア	0	1	63	0	77
	レジオネラ症	0	0	136	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	8	512	3	504
	ウイルス性肝炎	3	5	263	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	145	3	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	49	0	52
	後天性免疫不全症候群	0	5	996	8	949
	ジアルジア症	0	1	78	0	99
	梅毒	0	3	440	2	493
	破傷風	0	2	90	1	69
	急性脳炎	0	0	113	0	98

*1:平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2: " 感染症法の改正前のためE型肝炎のみの集計はされていません。

2) 定点把握の対象となる5類感染症

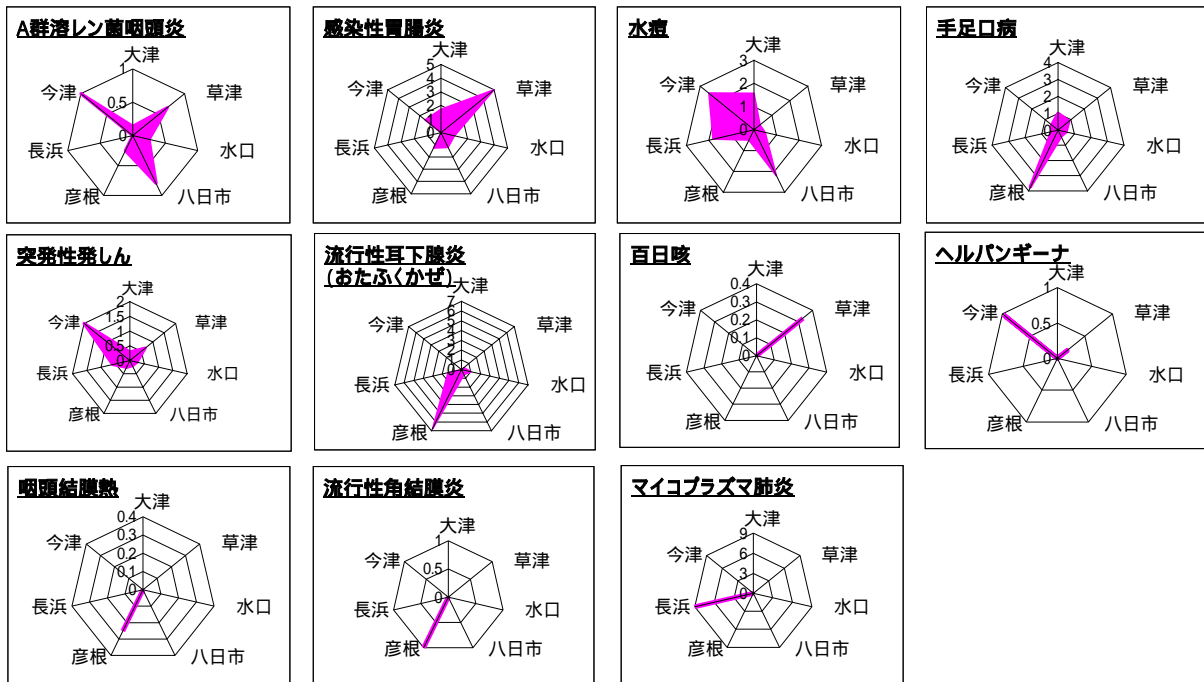
(1) 疾病別・週別発生状況(第41～46週、10/4～11/14)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	41週		42週		43週		44週		45週		46週	
	(10/4～)	(10/11～)	(10/18～)	(10/25～)	(11/1～)	(11/8～)	42	43	44	45	46	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	0.58	0.36	0.03	0	0	0.03						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.21	0.15	0.52	0.09	0.36	0.39						
感染性胃腸炎	1.88	1.70	1.39	1.94	2.00	1.82						
水痘	0.70	0.52	0.79	0.52	1.24	1.27						
手足口病	0.82	0.73	1.15	1.09	1.03	1.03						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0.06	0	0.15	0	0						
突発性発しん	0.97	0.70	0.70	0.27	0.27	0.48						
百日咳	0	0	0	0	0	0.06						
風しん(三日はしか)	0	0.06	0.03	0	0.06	0						
ヘルパンギーナ	0.06	0.09	0	0	0.03	0.09						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.58	0.76	0.85	0.76	1.18	1.30						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0.43	0.43	0.14						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0.14	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0.14	0.14	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0.29	0.29	0.43	0.29	0.29	1.29						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第46週、11/8～11/14)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0.03	0	0	0	0	0.25	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	0.14	0.67	0.25	0.80	0.25	0	1.00
感染性胃腸炎	1.82	1.71	5.00	1.00	1.20	1.25	0	1.50
水痘	1.27	1.57	0.33	0.50	2.20	0.50	1.80	2.50
手足口病	1.03	1.00	0.83	0.50	0.40	3.75	0.40	0.50
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発しん	0.48	0.29	0.67	0.25	0.20	0.25	0.60	2.00
百日咳	0.06	0	0.33	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0.09	0	0.17	0	0	0	0	1.00
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.30	0	0.33	1.00	0.60	6.75	1.40	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	1.29	0	0	0	0	0	9.00	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。水痘については先週と大きな違いはありませんが、八日市でやや多くなっています。手足口病については大津および彦根で多くなっており、特に彦根で急増しています。流行性耳下腺炎については先週に引き続き彦根で増加しています。また、百日咳の報告が草津からありマイコプラズマ肺炎については長浜からの報告が多くなっています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といいます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

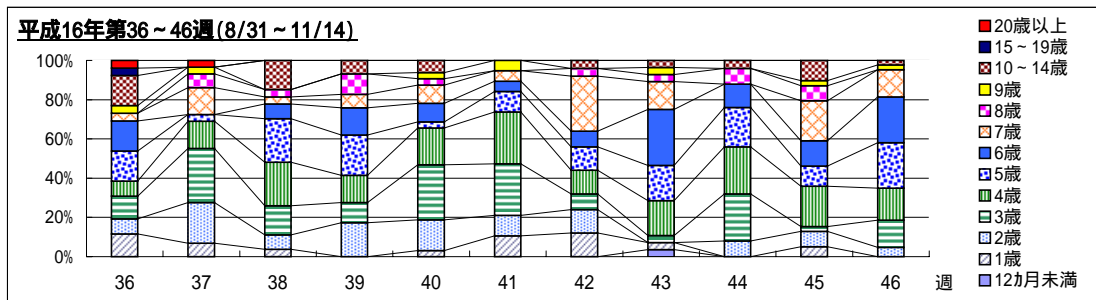
3) 今週のトピックス

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の発生は増加傾向持続 滋賀県における全数報告感染症の概要(平成16年第1週～第46週)

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(11月1日～11月7日)の報告数より多くなっており、水痘、突発性発しん、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、マイコプラズマ肺炎等で増加を示しています。その他の疾患については大きな変化はみられませんが、草津保健所管内から百日咳の発生が報告されています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)については、先週の定点当たり患者数1.18より増加し1.30となっており、特に、彦根保健所管内においては先週の定点当たり患者数6.00よりさらに増加し6.75となっています。また、第36～46週(8/30～11/14)の彦根保健所管内における定点当たり患者数は1.5～6.75で推移しており増加傾向が続いています。今後の彦根保健所管内の発生動向に十分注意する必要があります。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の週別・年齢別発生状況(平成16年第36～46週、H16.8.31～H16.11.4)



流行性耳下腺炎の年齢別発生割合(%) - 第36～46週 -

	H15	H16
12ヵ月未満	1.7	0.3
1歳	7.7	4.7
2歳	6.8	9.9
3歳	13.7	14.9
4歳	17.1	17.4
5歳	17.1	14.6
6歳	9.4	13.0
7歳	12.0	11.5
8歳	5.1	4.3
9歳	0.9	2.2
10～14歳	8.5	6.2
15～19歳	0	0.3
20歳以上	0	0.6

第36～46週における週別・年齢別発生状況はグラフに示すとおりです。また、平成15年および平成16年の第36～46週における年齢別発生割合は表のとおりです。

第36週、第37週、第42週および第45週においては7歳以上の占める割合が比較的多くなっており、第36週では10歳以上に多く発生しています。

平成15年および平成16年の年齢別発生割合についてみると、平成16年は2歳、3歳、6歳、9歳、15～19歳および20歳以上で平成15年より増加しています。平成16年の報告数は昨年同時期の約2倍となっております。特に6歳、9歳および15歳以上に増加傾向がみられます。

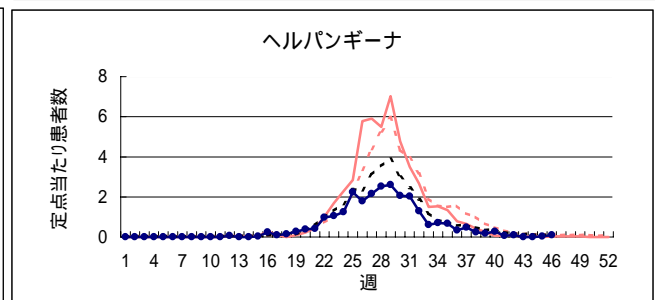
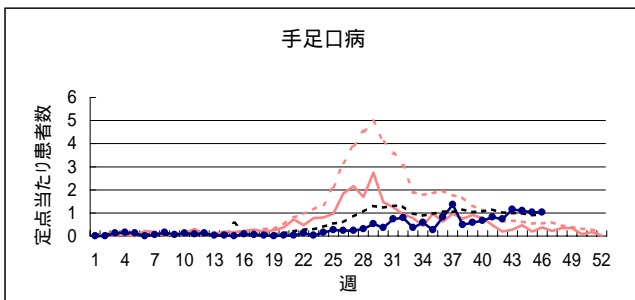
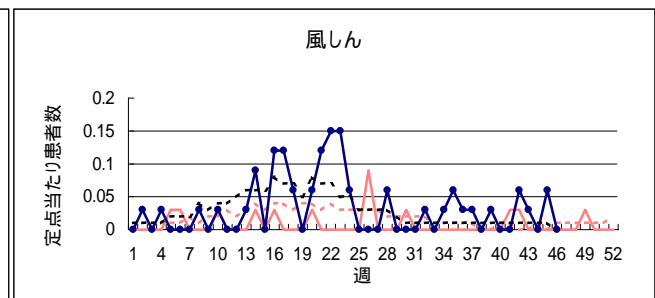
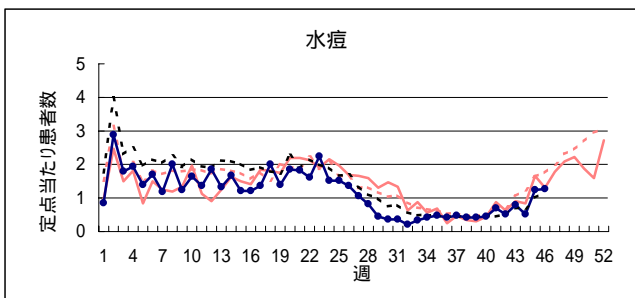
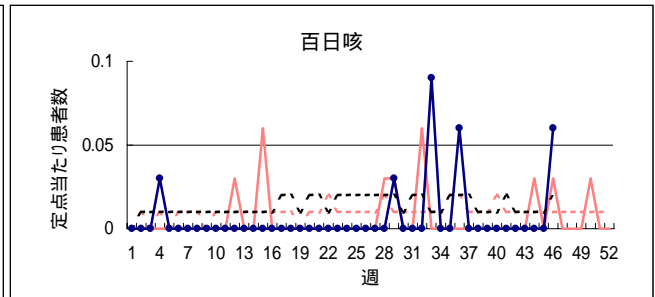
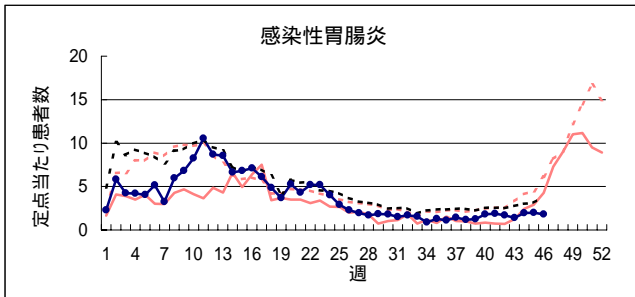
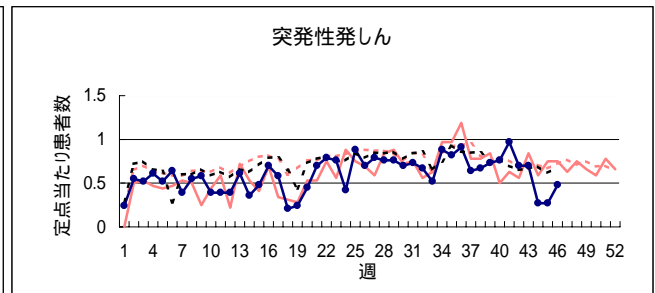
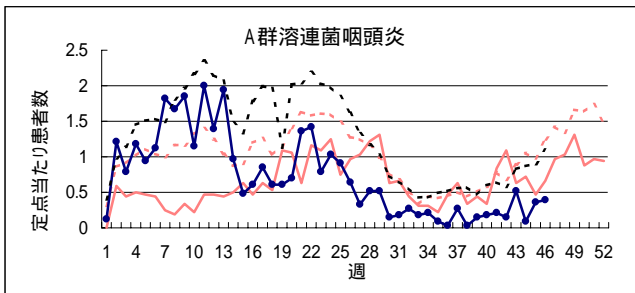
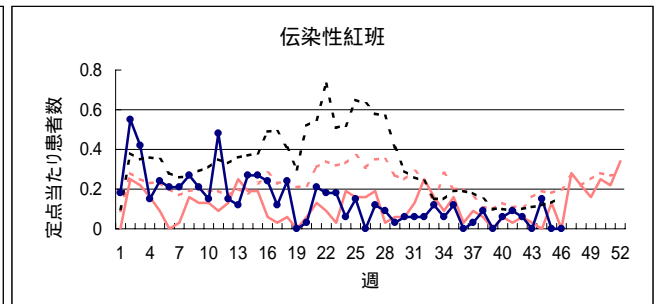
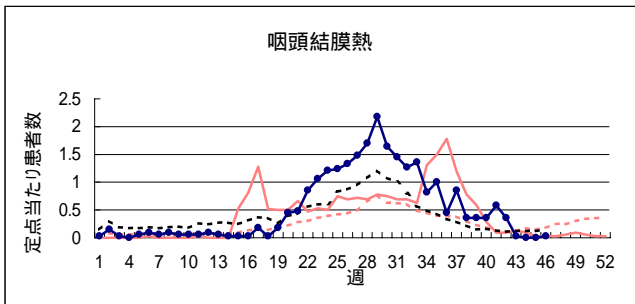
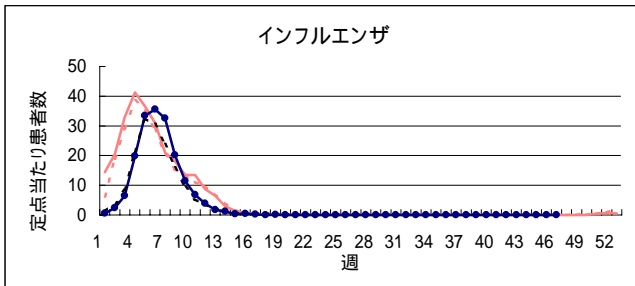
流行性耳下腺炎の最も効果的な予防方法は**予防接種(弱毒性生ワクチン接種)**であるとされています。また、学校保健法における登校基準は耳下腺の腫脹がある間はウイルスの排泄が多いので、腫脹が消失するまで出席停止とされています。

滋賀県における全数報告感染症の概要(平成16年第1週～第46週)

感染症類型	疾患名	1～42週の累積報告数	43～46週の報告年月日	概 要
一類感染症	報告なし	0		
二類感染症	細菌性赤痢	9	報告なし	
	腸チフス	1	H16.10.19	菌種:チフス菌 推定感染地域:インド 推定感染原因・感染経路:経口感染
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	20	H16.10.27	血清型:O157 産性毒素型:VT1(+)/VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:経口感染 * VT1:ペロ毒素1型 VT2:ペロ毒素2型
四類感染症	E型肝炎	1	報告なし	
	オウム病	1	報告なし	
	デング熱	2	報告なし	
	マラリア	1	報告なし	
五類感染症	アムエバ赤痢	7	H16.10.25	推定感染地域:不明 推定感染源・感染経路:不明
	ウイルス性肝炎	2	H16.11.8	B型肝炎 推定感染地域:日本国内 推定感染経路:異性間性的接触
			H16.11.10	B型肝炎 推定感染地域:上海 推定感染経路:異性間性的接触
			H16.11.10	B型肝炎 推定感染地域:日本国内 推定感染経路:異性間性的接触
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		H16.10.21	推定感染地域:日本国内 推定感染源・感染経路:不明
後天性免疫不全症候群	5	報告なし		
ジアルジア症	1	報告なし		
梅毒	3	報告なし		
破傷風	2	報告なし		

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第46週、H15.12.29～H16.11.14)



疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第46週、H15.12.29～H16.11.14)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H16 〔 滋賀 —●—●— 全国 〕

